

10月31日(日)・大会2日目 12:10~13:10 (A会場) (60分)

●ランチョンセッション

「大学教員のキャリアについて  
—就職活動・昇進・異動(移籍)・割愛・退職金・年金—」

\* 加藤寛之（法政大学 社会学部 教授）

\* 代表報告者

[概要]

大学院生は大学に教員として就職すると環境の激変に直面します。組織学会のセミナーや全国大会では主に研究の話がメインとなります、大学教員としてキャリアを歩む上で、研究に関する以外で知っておいた方が望ましいことも実は多いのではないかと思います。特に大学教員のキャリアや生活設計に関する情報を共有したいと思っております。私自身は法政大学が大学教員として務める3つ目の大学です。大学教員としての就職活動時の体験や講義・委員・教授会・入試等の公務負担について、任期付きの教育困難校での体験について、更に、大学を移籍する際に体験したこと、大学によって給与・賞与・手当・退職金・年金の制度が異なることについても情報を共有したいと思っております。

[参加者へのメッセージ]

近年では大学→大学院→大学教員という単線的なコース以外の道を経て大学教員となるケースも増えているのではないでしょうか。また大学院生の少ない大学院で学んでいて、大学教員の生活やキャリアについての情報に飢えている方もいると思います。また、大学間の移籍を考えて悩んでいる方もいるでしょう。私自身は高校卒業後実家に就職し、実家をたたんで勉強して大学進学し、民間企業に就職し会社員となり、退職して大学院に進学し、大学教員となりました。その後2回大学を移籍しています。大学進学後は順調だったかのようにも見えますが、全然そうではなく紆余曲折がありました。悩みながら自分が様々体験したことを共有したいと思います。

※講演方式